

「歴史の里」基本計画(案)に対する意見書

平成 26 年 2 月 8 日

名古屋市教育委員会
教育長様

志段味の自然と歴史に親しむ会
代表世話人 野田 輝己
世話人 高木備太郎
櫻井 隆司
玉岡 悟司
犬塚 康博

私ども「志段味の自然と歴史に親しむ会」は志段味地区で区画整理事業が具体化され始める当初から自然と歴史を活かした街づくりを提唱し、今日まで 30 年近い活動を続けてきました。名古屋市教育委員会が長年かけて、「歴史の里」実現に向けて取り組まれてきたことに敬意を表しますとともに、やっと実現の方向に動き出すことに私どもにも感慨深いものがあります。

ただ、大変失礼な言い方ではありますが、今回の案は教育委員会が提案される案とはとても考えられません。基本理念にある「古代のロマン」、「にぎわい」だけに重点があり、どこかの観光協会が文化財や自然景観を活かすことを言葉では表現されても、実態的には無視して作られたような案に見えてなりません。もっとも、観光協会ならば華々しいスタート時の集客が将来にわたって維持できるかというデータを集められて、投資に対して採算が合う事業であるかを慎重に検討されるものと思います。総花的であることは、スタート時の経費も多くかかるということでもあります。教育委員会にとっては、区画整理で変貌を遂げる中、最終的にこの地域と一部の場所にしか残らない自然の旧状をどう活かしながら志段味に本来あった自然の姿を表現し、また、まだまだ解明できていない、入口に到達しただけの志段味古墳群を含めた地域の歴史を今後どのように市民と共に解き明かしていくかという提案が、作ろうとする「歴史の里」の中に込められているべきではないでしょうか。

以下、項目をあげて今回の「歴史の里」基本計画案の問題点を明らかにしますので、それぞれについて担当部局としてのお考えを回答としていただけることをお願いします。

1. 基本方針の第1の柱「古墳群と自然地形・景観の文化財としての保存活用」が第2の柱「地域のにぎわい創出・まちづくり」の具体化により全く無視された内容になっている問題

2の柱での「市民のみならず、市外、県外からの来訪者が集う歴史・文化のテーマパーク的な位置づけ」が土台となり、考えられるもの全てを歴史の里域内にあげレジャーランドを築こうとする内容になっています。そのため台地上に様々な造作をして、遊び場づくりする結果となっています。古墳を通して歴史認識を広げ、志段味の自然を理解することからはお

よそかけ離れた内容と言わざるを得ません。そもそも客観的に見て、県外からも集客できるようなテーマパークとなりうるインパクトを志段味の古墳が持ち得ているのかという判断に欠けているようでありません。インパクトをつけるためにレジャーランド化を図るとすれば、これは本末転倒な計画であると言わざるを得ません。奈良県の三輪山の麓に「卑弥呼の里」というテーマパークでも作ろうとするような勢いの内容に、名古屋人として気恥ずかしさを感じるばかりでなく、全国の笑い者になるような文化財行政（教育委員会）が推進したテーマパークとなることの懸念が先に立ってなりません。

2. 安易な古代感覚を売り物とする事業計画が歴史を深く追求する姿勢の妨げになる問題

伊勢安土桃山文化村のような遺跡と関わりない全く別な場所で、すべて作り物のお楽しみ施設が最初から民間事業で作られるのなら、もともと営利と理解でき歴史認識の問題は二の次のところがあっても納得のいくところですが、国史跡の文化財である古墳等を含んで「古代ロマンを五感で体感」するとなると、ことさらい加減な話では済まされません。古代米と言って赤米のようなものを食べさせ、イノシシ鍋をつくって古代食とするのは、珍しいことでもなく多く観光目的で行われていることですが、それで古代の雰囲気味わえるとするのはいささか安易な考え方と言わざるを得ません。勾玉づくりや五鈴鏡づくり、埴輪づくり、火起こしに類することは、博物館や資料館に親しんでもらう子供向けイベントとして多く行われていることです。本物を知らしめる使命を博物館等の施設が担っているわけで、親しめることだけで検証のないものを安易に広めていく姿勢は問われなければなりません。

3. 周辺での既存事業を視野に置き連携をはかろうとしていない問題

同じ上志段味のフルーツパークでは毎週土曜・日曜日と朝市が行われ、「歴史の里」で掲げられている産直市にあたるものが既に続けられています。また野添川と庄内川の合流点に近いビオトープでは、土岐川・庄内川流域ネットによる「ビオトープで遊ぼう」というイベントが毎年3月と8月に行われ、「歴史の里」にもある竹林体感にあたるものも行われています。また春日井の味美二子山古墳公園では毎年制作埴輪を焼く行事が行われるなど、周囲に実績のある事業を続けているところがありますが、その点で言えば何が「歴史の里」の特徴ある事業か見つけ出しにくいところがあります。すでに近隣で行われていることを民営事業者参入とするにせよ、敢えて経費を掛けてそのスペースを整備する必要があるのか疑問です。

4. 民間事業者参入の採算性のチェック、集客の未来予測ができていない問題

古代風宿泊体験所、段丘体感とりで、段丘スライダー、探検モノレール、産直市などが民間事業者参入の例として挙げられています。民間事業者参入により低コスト化をかかれています。いずれも段丘部分に造作を必要とし、作れば施設維持の面でも経費がかかります。果たして民間事業者参入を掲げてまでもやるべき事業なのでしょうか。民間事業者参入のた

めには事業採算が将来に渡って見通せることが必要です。それは参入事業者が考えることであるとするなら、計画としては余りにも無責任と言えます。段丘や段丘上景観は、できるだけ維持して自然や遺跡を残すことが第1の基本方針の趣旨でもあり、民間事業者参入が経費節減にとってバラ色に見える幻想は捨てなければなりません。全国的にもテーマパーク＝廃園の感が強い中、不安要素の強い事業に税金をつぎ込むのはリスクが大きすぎます。失敗したら現在の教育委員会の責任ある立場の方々が弁済する用意があるのでしょうか。その責任は明確にしておく必要があります。

5. 将来の発掘調査を含む地域の歴史の研究展望が明らかされていない問題

区画整理事業が進む中で、上志段味の古墳が歴史の里として保存される一方、中志段味の天白元屋敷遺跡の破壊が見落とされていて、古墳一点にしか向いていない志段味地区の文化財行政の一端を覗かせています。志段味には古墳以外にも多くの遺跡があり、古墳との関係で言えば同時代の他の遺跡とのかかわりは全く解明されていません。「歴史の里」事業地域内についても点としての古墳は調査・復元等の対象になっていますが、点在する古墳の間を繋ぐ空間については全く問題意識にのぼらず、むしろテーマパークのための施設で埋め尽くされています。古墳を含む墓域全体がどうなっていたのか、他に眠っている遺構はないのか等は、復元をうたう以上、今後の調査の課題であるべきです。しかし、それを無視してテーマパーク施設が優先されるのは、文化財保護の立場に立った事業とは言えません。

6. 文化財で金稼ぎまで考えるのかと驚きの市民発掘体験の問題

12月17日の新聞紙上に大々的に報じられた「市民も古墳発掘」の中身は目を疑う内容でしたが、基本計画の中に想定される体験メニューとして、本物の古墳発掘調査体験として、ショートコース1時間500円、専門コース2泊3日50,000円とはっきり書かれているのには驚きでした。文化財を売り物にして商売をする、お金を払ったら発掘に出させてあげるといのは、どこから出てくる発想でしょうか。裏返して言えば、お金が出せない貧しい人は発掘に参加できません、指を咥えて見ているだけにしてくださいということです。これでは、文化財に対する理解の貧困さが疑われるばかりでなく、文化財を扱う発掘そのものが単なるイベントとしか理解されず、市民とともに歴史を明らかにしていこうとする論理が全くないことを意味しています。見晴台遺跡で全国無二と誇る市民発掘を、50年もの間続けてきた名古屋市の文化財行政に泥を塗るばかりでなく、前代未聞との嘲笑を全国から受ける市民発掘体験だと言えます。決してこのような発掘調査は実施すべきではありません。また、古墳は歴史的な文化財ではありますが、誰が葬られているかわからない墓でもあり、古墳を含む地域の保存に関してはどこでもそれなりの配慮が行われています。祖先を敬う心情からすれば、お金をとっての発掘体験は不遜な行為だと言わざるを得ません。

7. シアターと営利目的スペース中心で構成されているガイダンス施設の問題

ガイドンス施設の中心は3Dシアターとガイドンスシアター・時空隧道と音響と映像の施設になっています。展示室はわずかで、そこには「出土した埴輪や志段味王の復元像を展示するほか、・・・」とやはり創作物を中心にイメージだけを焼き付ける手法が使われています。施設内容はほとんどが営利的なものを中心としたレストラン・カフェ・ミュージアムショップ、観光案内所のスペースとなっています。体験学習室1・2も埴輪作り1時間300円、勾玉作り1時間300円、五鈴鏡作り1時間30分500円、古代衣装体験20分300円、こども考古クラブ3,000円のための部屋です。体験学習を名目にして、子どもをお客さんとする営利意欲が渦巻いています。しかし、これらの体験は多くの博物館や資料館等で時々行われていることでもありますが、常時実施しているものではありません。もともと営利として成り立つものではなく、本物とは違う材料で形だけ似た物を作る体験ですから、博物館としては邪道の体験活動と言えます。これらをメインとして作られるガイドンス施設とは一体何なのでしょうか。

8. 伝説一の端をことさら大きく取り上げ史実のように「古代のロマン」を演出する問題

確かに白鳥塚にはヤマトタケルに関連する白鳥型伝説の一種があります。しかし、白鳥という名称や、尾張戸神社の存在からヤマトタケル伝承を結びつけた「古代のロマン」を演出しようとしています。伝承はありますが、神社と尾張戸神社との関係は不明で、無論神社と古墳の関係も全く不明です。ロマンを誘うからと言って、安易な方向性で両者を接続してテーマパークの柱にするのは、極端な言い方をすれば宇宙人がピラミッドを作ったという類の話テーマパークの柱にすることと変わるところがありません。歴史を深く追求する姿勢からは遠くかけ離れています。

9. 志段味に自生する貴重な動植物を守るという自然への課題を明確にしていない問題

古代の森の項目に取ってつけたようにマメナシの保存をあげていますが、志段味地区には自生する多くの貴重な動植物が存在することはすでに知られているところです。これらを残されている自然環境の中でどう維持していくかは、この地域の自然にとって大きな課題で、そのための保存活動こそ大切です。マメナシを古代にまつわる植物の列に加え、古代の森を植樹によって作ることで自然を理解できると考える安易な発想こそ問題です。ガイドンス施設はそうした自生地環境を守る、地域の自然とつながったビジターセンターの役割もはたす必要があります。残された自然をこれからの人の手で守り育てることのコミュニティーでもあるべきです。

10. 志段味地区での民俗調査の成果や集められた民具の活用に触れられていない問題

区画整理事業に入るまで志段味地区の古墳が良好に残されてきた背景は、ここが名古屋市

内で最後まで農村社会を維持してきた地域だったからです。そのため、ここには独特な地域文化が残されていて、それを記録する民俗調査が行われ、残されていた民具についても将来の「歴史の里」建設に向けて名古屋市教育委員会により収集する作業が行われました。私ももも上志段味で長年農鍛冶を続けられていた中村義行さんより譲り受けた道具類を、求めに応じて提供させていただいた経緯があります。これら調査の成果や集められた民具をどう扱うのかは、全く触れられていません。協力を得た地元に対して説明する責任と義務があると思われませんが、どうお考えでしょうか。また、その一方で志段味とつながりのない森川邸をことさら今回の目玉の1つとしてあげながら、文化財的価値のある建物をそれが辿ってきた歴史的な経緯を踏まえなくて、カフェ・売店施設に転用することで義務が果たせたとするの、提供者の協力に対して誠意を欠いた対応だと言えます。

11. ガイダンス施設に求められるもの

ガイダンス施設は基本方針の第1の柱からすれば、志段味地区を流れる庄内川、それが形成した段丘、湧き出す泉、それら自然に棲息する生き物、農村社会の生活と文化、古墳をはじめとする遺跡など区画整理事業直前まで豊かに残っていた地域の財産を未来につなぐものでなければなりません。古墳に特化されたテーマパークではなく、地域の自然と歴史・文化に幅広く触れることのできる情報や資料を提供することで、個々の事物や人々が交流し活動できるコミュニティーを作り上げることができます。民具にも現在なお使用が可能なものがあり、それが使える活動を地域の様々な人々と協力して演出していけば立派な体験学習ができます。イベントはそれぞれの時代と人とのつながりの中で、絶えず考え工夫されていくべきものです。代価を求めて固定したことしかやらない施設の先は見えています。出来合いの物を提供する遊戯的な発想に立った学ぶ施設ではなく、本物を見極める目を持ち質の高い地域活動や文化を市民の手で築き上げることのできる施設であってほしいと願うものです。ガイダンス施設はそうした地域の文化活動を支え発展させる根となる施設でなければなりません。

12. 「歴史の里」の空間イメージ

もっとシンプルに大人も子供も家族で憩うことのできる緑と空と空気のうまい空間で、そこに古墳やガイダンス施設が違和感なく存在する演出こそ、「歴史の里」として求める姿であるべきことを提案します。人集めだけに走り雑踏の中に作り物が並ぶテーマパークこそ時代遅れの計画と言わざるをえません。また、上志段味特定土地区画整理組合のパンフレットにも「緑地や公園に近い、閑静な人気住宅地が勢揃い」とあります。閑静な住宅地にテーマパークは不釣合です。時季によってはすでに相当の交通渋滞のあるフルーツパーク等の観光施設とあわせて、もし計画が成功すれば交通量、交通事故、騒音、排ガス公害は増えることとなります。地域住民の生活、生活道路との関係をどのようにお考えになっている案でしょうか。

13. 派手なパフォーマンスが公費で行われ今後も続けられようとする事への疑問と問題

「歴史の里」事業は推進段階からパフォーマンスを織り交ぜた宣伝活動が盛んに行われていますが、市の行政が事業推進にあたって、公費で目立つ宣伝事業をやらないと事業予算がつかないとするならば、どこか狂っているとしか言いようがありません。OS☆Uの若い女性を呼んで盛り上げる、自らを宣伝する派手なパフォーマンス事業に予算が使われる仕組み自体に大きな問題があり、そのパフォーマンス事業が延々と続くとする「歴史の里」の基本計画（案）は本当に文化財を扱う計画かと疑わざるを得ません。経費をかける場所が違うのではないのでしょうか。

以上数多くの事柄をあげましたが、自然や文化財、地域文化などに真摯に向き合う姿勢を感じることができないばかりか、基盤施設整備の上でも無駄が多く将来に禍根を残す基本計画（案）であると判断するからです。上志段味の古墳群は、千数百年をかけて伝えられてきたものです。これを私たちは、さらに千年以上伝えてゆく義務を負っています。今回の計画は、この義務に耐えることができるでしょうか。長い歴史をもつ世界の公園を訪ればあきらかなように、今回の歴史の里計画のような刹那的な公園はありません。このままでは歴史の里は直に役割を消滅させてしまうでしょう。私たちは、人類史ならびに自然史の展望に立って、上志段味の古墳群を保存し活用しなければなりません。貴職が本来行わなければならないことを再確認して「歴史の里」基本計画（案）の再考をされることを求めます。